# 山東方言の声母の分析

馬　　鳳　如

# The Analysis of Consonants in Shandong Dialect

Fengru Ma

要　　目

0．はじめに
1．中古音声母と方言声母
　1.1　知，荘，章の合流と分化
　1.2　精組洪音の統一と分化
　1.3　日母の統一と分化
　1.4　精，見二組の細音の合流と分化
2．児化による声母への影響
　2.1　単子音声母から複合子音への変化
　2.2　単子音Ａから単子音Ｂへの変化

## はじめに

山東方言は，中国語の北方方言の中でははっきりした特徴がある下位方言である。音声に於いては南方の諸方言の様な，北京音と大きな隔たりがある訳ではないが，声母にあっては明らかな地方色を示す。本稿は筆者自身が直接調査収集した資料を基礎に先賢の研究に基づき，山東方言の声母の体系を総合的に分析していこうとするものである。本稿は，山東方言における中古音の声母の分布と発音から見て行く。また，類別と音価から古今音の関連と区別を分析すると同時に，方言の声母と北京音の声母との対応関係，併せて両者の違いとその成立の原因を探りたい。さらに山東方言声母の静態分析を進めた後，動態的手法で児化による方言声母の形態変化を明確に分析し，山東方言声母の様相を客観的に映し出そうとするものである。

## 1．中古音声母と方言声母

### 1.1　知，荘，章３組声母の合流と分化

中古音の知，荘，章三組の声母は現在の北京音ではほとんど合流して，舌先後音であるzh ch shになったが，山東各地の方言ではさまざまな表れ方をしている。大別すると、合流と分化の２種類がある。つまり，地域によって１組の声母になったり，２組の声母になったりする違いがある。具体的な表れ方は次の通りである。

#### 1.1.1　合流の場合

合流の場合において異なる２種類の声母に注意する必要がある。１種は北京音と同様に，舌先後音のzh ch shで発音し，もう１種は舌先前音であるｚｃｓと発音する。その二つの状態は，どれも山東を流れる河と関係がある。袁家骅(1960)が指摘したように“川の流れは天然の壁であると同時に天然の交通路であり，方言の分化を助長すると共に同化をも促す”(筆者訳)。山東省には２つの大河がある，一つは中国第２の黄河，もう１つは有名な京杭大運河である。興味深いことに，それぞれの大河の両岸の方言の声母は驚くほど似ている。中古音の知，荘，章３組の声母は黄河流域の大部分の地区では舌先後音のzh ch shとなる。済南，徳州，泰安，淄博，塑利などである。しかし，大運河流域の広い地域では，ほとんど舌先前音のｚｃｓとなる。済寧，曲阜，東平，聊城などである。大運河はずっと昔から重要な交通路であるので，山東方言のこの中古音知，荘，章３組の声母の変遷の特徴は

遠く天津方言にまで影響を与えたか，もしくは天津方言が山東方言に影響を与えのかもしれない。

1.1.2　分化の場合

分化の具体的状況は，山東の各地では大きく異なるが，２種類の声母に分かれる点では一致している。合流を分析する中で，声母のみを考え韻母を考慮に入れなくても良いとしても，分化を分析する際には韻母のことも考慮する必要がある。なぜなら，韻母の条件の違いが方言の声母を分ける重要な決め手となるからである。分化は２つの異なる基準に基づいて２種類に分類される。

1.1.2.1　現代音の韻母による分類

この種では現代韻母の“開口”，“合口”の角度だけでも区別することができる。このような特徴を持っている方言の地域は余り広くなく，南部の棗荘，滕州地方に集中している。知，荘，章３組の字は韻母が現代音の開口呼である場合は，舌先前音声母のz-c-s-となり，合口呼である場合は，唇歯音声母の〔pf〕〔pf‘〕〔f〕となる。次の例を見てほしい。

| 開口呼類 | | | | | | | 声母 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 智 | 者 | 赵 | 站 | 真 | 争 | 张 | z |
| 池 | 车 | 抄 | 产 | 陈 | 骋 | 昌 | c |
| 师 | 蛇 | 少 | 山 | 神 | 盛 | 商 | s |

| 合口呼類 | | | | | | | 声母 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 猪 | 爪 | 拽 | 专 | 庄 | 追 | 准 | 〔pf〕 |
| 出 | 揣 | 传 | 窗 | 吹 | 唇 | 戳 | 〔pf‘〕 |
| 输 | 刷 | 帅 | 拴 | 霜 | 水 | 顺 | 〔f〕 |

1.1.2.2　中古音による分類

中古音の韻母といえば，摄，呼，等，韻などの要素を含む音声構造である。これらの要素は，中古音の知，荘，章３組の声母が山東方言で声母を分化する重要な条件と根拠である。例えば“脂”と“织”，“抄”と“超”，“勺”と“韶”などそれぞれの違いは現代音によってはなかなか区別できず，中古音韻母のある細かい条件により分類の根拠を探さなければならない。

知，荘，章３組の声母の合口呼韻母の字が山東方言では表れ方がほぼ一致している。即ち一通りの発音しかない。例えば山東半島の東端の文登方言では“朱，中，处，纯，书，拴”などの字はみな舌先後音声母のzh-ch-sh-となるが，開口呼韻母の字は２組の声母に分けられる。次のA，Bの例を見てほしい。

| A　類 | | | | | | | | 声母 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 织 | 秩 | 折 | 招 | 周 | 展 | 贞 | 阵 | zh |
| 驰 | 尺 | 车 | 撤 | 朝 | 抽 | 臭 | 忏 | ch |
| 失 | 傻 | 舌 | 烧 | 收 | 善 | 神 | | sh |

| B　類 | | | | | | | | 声母 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 脂 | 渣 | 闸 | 榨 | 摘 | 宅 | 罩 | 诌 | j |
| 匙 | 齿 | 插 | 柴 | 产 | 衬 | 撑 | | q |
| 虱 | 时 | 杀 | 筛 | 捎 | 肾 | 生 | 省 | x |

文登方言では中古音の知，荘，章３組の声母の開口呼の字は舌先後音と舌面音の２種類に分けられ，その分化の条件は２つあると思われる。先ず，“等”と関係がある。舌先後音となったのは皆三等字で，舌面音となったのはほぼ二等字である。次に，“摄”と関係がある。“止”摄が特別で，その３等字の大部分が舌面音となっている。

このような分化現象は山東半島の中部，東部及び山東省南西部に分布している。分類から見れば，ほぼ２種類に分けられるが，実際には様々な表れ方をしている。主には次の５種類が注目される。

(1) A類は，舌先後音のzh ch sh，B類は舌面音のjqxに分かれている。例えば山東半島の東南部の文登，乳山等地。

(2) A類は舌先前音のｚｃｓ，B類は舌面音のjqxに分かれている。例えば山東半島の東北部の煙台，蓬莱，黄県，莱陽，栖霞等地。

(3) A類は舌先後音のzh ch sh，B類は舌葉音の〔tʃ〕，〔tʃ‘〕，〔ʃ〕に分かれている。例えば山東半島の南中部の青島，維坊，膠州と東部の栄城等地。

(4) A類は舌先前音のｚｃｓ，B類は舌葉音の〔tʃ〕〔tʃ‘〕〔ʃ〕に分かれている。例えば山東半島の中北部の莱西，招遠，威海等地。

(5) A類は舌先後音のzh ch sh，B類は舌先前音のzcsに分かれている。例えば南西部の単県，菏澤など。

以上のさまざまの表れ方から分かるように，中古音の知，荘，章３組の声母は現代の山東方言の内部でもかなり異なっている。それは古今音声の変化の仕方やその速さによって，もたらされたものであろう。山東の多くの地区と北京音の発音の間には大きな違いが見いだせる。すべてを舌先前音のzcsで発音するのか，またはその一部分を舌先後音で，他の部分を舌先前音で発音するのか，２種類に分かれて，北京音の１種類(舌先後音)と区別される。中国語の８大方言の現状をざっと見ると，南方の諸方言には一般に，舌先後音のzh ch shが存在しない。言い換えれば中古音の知，荘，章３組の声母は舌先後音に変化せず，直接に舌先前音のzcsとなり，精組洪音と合流したのが多い。この様な状況は大部分の北方方言地域でも見られる。もし，中国語の知，荘，章３組の声母が舌先前音の方向へ変化していくという仮定が成立するならば，現在の山東方言の実状は，音声変化の過程のもう一つの側面を映し出していると言えるのではないだろうか。

### 1.2 精組洪音の統一(注)と分化

北京音において，中古音の精組声母は韻母の“洪音”と“細音”により２種に分かれている。細音は舌面音声母のｊｑｘとなり，洪音は舌先前音のｚｃｓとなった。山東方言において精組(洪音)声母の変遷は北京音と完全に同じとは言えず，様々な表れ方をしている。全体から見れば，統一と分化の２種があり，知，荘，章３組声母に似たあり方をしていると思われる。

#### 1.2.1 統一の場合

統一というのは精組(洪音)が1組の声母に統一されることである。しかしこの種について，山東方言の内部ではまた３種類に分かれている。

(1) 北京音と同じように，ｚｃｓとなる。山東省の広い地域，例えば済南，済寧，煙台，淄博の方言。

(2) 北京音と違い，歯間音の〔tθ〕〔tθ‘〕〔θ〕となる。山東半島の西部地方，例えば寿光，安丘，蒙陰，日照，莒県などの方言。

(3) 北京音と違い，舌先後音のzh ch shとなる。山東省の南西部の東明県にのみ見られる。この地区の方言は，舌先前音声母ｚｃｓは存在しないで，中古音の知，荘，章組と精組(洪音)を区別せず，すべて舌先後音のzh ch shとなっている。中国語の方言ではとても珍しいことである。

#### 1.2.2 分化の場合

山東方言の中で精組(洪音)声母は，基本的には現代音の開口と合口に即して分化されている。同じ中古音の精組(洪音)だが，開口と合口はそれぞれの組の声母になってしまう。具体的な様子は次の通りである。

(1) 舌先前音ｚｃｓと歯間音〔tθ〕〔tθ‘〕〔θ〕に分かれている。合口呼(例えば“卒，尊，醋，从，孙，送”)は舌先前音声母となり，開口呼(例えば“自、在、走、刺、才、思”)は歯間音声母となる。膠州湾地区(青島，膠州，膠南など市，県を含む)の方言がそれである。

(2) 舌先前音ｚｃｓと舌面音ｊｑｘに分かれている。この特徴を持っている方言は山東省南部の棗荘，滕州など狭い地区に限られている。これらの地区では，開口呼は前者となり，合口呼は後者となり，見組(細音)声母と合流してしまった。従って，方言には舌面音声母の字が多く見られる。例えば：

组＝桔　钻＝卷　醋＝去　搓＝缺　酥＝须　缩＝雪

精組合口呼が舌面音になってしまったが，舌先前音声母の字は他の方言と比べて少なくないと言う訳ではない。なぜなら，知，荘，章３組の開口呼がこの方言でほとんど舌先前音ｚｃｓ声母になったからである。(一節を参照)

### 1.3 日母の統一と分化

中古音の日母は北京音において舌先後濁摩擦音のｒとなっているが，山東方言では北京音と違う在り方をし，また省内各地にもいろいろな区別がある。やはり統一の場合も分化の場合もある。

#### 1.3.1 統一の場合

この種の特徴は中古の日母が１つの声母と

なったが，しかし北京音と区別がある。方言の具体的な様態は次の２種がある。

(1) 舌先前濁摩擦音の〔z〕となっている。この表れ方は山東省西部を流れている大運河沿岸の広い地域に分布している。例えば微山，魚台，金郷，済寧，汶上，陽谷，聊城などの方言。以上の方言では舌先後音声母 zh ch sh がなく，第一節に述べたように中古音の知，荘，章組の声母の字がすべて舌先前音になったので，この日母が〔z〕になったのは理解し易いであろう。

(2) 零声母(斉歯呼)となっている。この表れ方は山東半島の東部及び南東部地区に分布している。青島，牟平，文登，煙台などの方言である。次の比較を見てほしい。

熱＝叶　若＝悦　日＝意　乳＝雨　绕＝要
肉＝又　然＝言　让＝样　润＝运　荣＝勇

方言では日母は影母，喩母と合流し，ほぼ零声母になったので，他の地方よりかなり多く零声母の字が見られる。

1.3.2 分化の場合

一部の地区では，中古の日母は２つの声母に分れている。次の２種に注意する必要がある。

(1) r と l に分られる。済南，徳州，聊城，泰安などの方言では現代音の開口，合口により r と l に分かれる。中古音日母の開口呼(例えば“日，人，然，肉，让”)は r 声母となり，合口呼(例えば“如，若，瑞，软，荣”)は舌先中邊音１声母となる。

(2)〔z〕と〔v〕に分かれる。この特徴を持っている方言は主に山東南部の棗荘，滕州に集中している。現代音の開口，合口により２つの声母に分けられる。中古音日母開口呼は舌先前濁摩擦音〔z〕声母となり，合口呼は歯唇濁摩擦音〔v〕となる。(上の例を参照)

上述のように，中古音の日母は山東各地での表れ方はさまざまで，完全に北京音と同じのがほとんどない。ある地域では r 声母を持っている(済南など)とは言え，わずかに日母の一部に限られる。

1.4 精，見２組の細音の合流と分化

北京音において中古音の精，見２組の細音字は併せて一組の声母，即ち舌面音i q xとなっている。山東方言では，この２種の声母の発展の不均衡が明らかに表れている。合流されるものも，別々に分かれるものもある。これは“尖音”と“団音”を区別するか否かということである。

1.4.1 合流の場合

山東の大部分の地区の方言は北京音と同じように，精，見２組の細音字が一組の声母に合流され，j q x と発音する。例えば済南，済寧，棗荘，泰安，徳州，淄博などの方言では，箭＝剣　姜＝江　齐＝奇　全＝权　小＝晓　星＝兴である。合流は山東方言の主流と見られる。

1.4.2 分化の場合

一部の地区では精，見２組の細音はそれぞれ独自の特徴を持ち，互いにはっきり分かれている。この違いは地域によって４種の表われ方をする。

(1) z c s と j q x に分かれている。例えば南西部の荷澤，単県等地区の方言では精組声母の細音が前者，見組声母の細音が後者となる。この方言では見組声母の細音がすでに洪音と区別されて，舌面音 j q x になっていたが，精組声母の細音が洪音と引き続き同じ声母(z c s)を持ち，分かれていないわけである。統一類の例を参照。

(2) z c s と舌先中音〔c〕〔c‘〕〔ç〕に分かれている。例えば半島東部の文登方言では精組声母の細音が前者，見組声母の細音が後者となる。つまり，この方言では見組の細音と洪音とは分化されたが，精組においては細音と洪音とはまだ一致しているわけである。上の例を参照。

(3) j q x と舌面中音〔c〕〔c‘〕〔ç〕に分かれている。牟平方言では精組声母の細音が前者，見組声母の細音が後者となる。この方言において精，見２組とも細音，洪音がはっきり区別され，それぞれ‹z c s›，‹j q x›，‹g k h›，‹〔c〕〔c‘〕〔ç〕›となっている。

(4) 歯間音〔tθ〕〔tθ‘〕〔θ〕と舌葉音〔tʃ〕〔tʃ‘〕〔ʃ〕に分かれている。日照，諸城などの方言では精組声母の細音が前者，見組声母の細音が後者となる。この方言においても精，見２組の

洪音と細音がはっきり区別され，それぞれ舌先前音<ｚｃｓ>，歯間音<〔tθ〕〔tθ'〕〔θ〕>，舌根音<ｇｋｈ>，舌葉音<〔tʃ〕〔tʃ'〕〔ʃ〕>となっている。

以上，中古音知，荘，章，精，見などの組の声母の山東方言中での主な表われ方及び分布を分析した。見て分かるように，それらの表われ方は北京音と様々な違いがあり，音声変遷の地方的特徴が充分に反映されるが，端組，幇組の変化はほぼ北京音と一致している。

## 2.児化による方言声母への影響

上記の１節で，中古音声母の方言声母への変遷を通じて山東方言の特徴を静態的に分析した。本節では児化という音声の変化の中，即ち動態的な環境での声母の表れ方を観察したい。周知のように，北京音と他の方言では児化は韻母に影響を与え，舌先を巻く動作に伴い，韻尾或いは主母音が変化する。が，山東方言では児化は韻母だけではなく，声母にもいくつかの影響を与える。次に児化が声母にどの様な変化をもたらすかを分析したい。

### 2.1 単子音から複合子音への変化

かつて筆者は山東南西部の金郷，嘉祥，魚台，単県，成武及び半島南東部の莱西，膠州，黄島などの方言を調査したことがある。これらの方言には児化によって一部の声母が単子音から複合子音へ変化することがひろく見られる。その表れ方は大抵次の２種である。

#### 2.1.1 原声母に濁子音のｒが付く

金郷，単県，城武，嘉祥など南西部の方言では，ｂｐｍｄｔｎｊｑｘの声母の音節が児化すると，濁子音ｒが原声母の直後に付いて，複合子音声母となる。以下例を示す。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 边 | bian | （靠）边儿 | briar |
| 皮 | pi | （脸）皮儿 | prier |
| 面 | mian | （白）面儿 | mriar |
| 刀 | dao | （小）刀儿 | draor |
| 土 | tu | （提）土儿 | trur |
| 捺 | na | （一）捺儿 | nrar |
| 驹 | ju | （马）驹儿 | jruer |
| 旗 | qi | （小）旗儿 | qrier |
| 席 | xi | （凉）席儿 | xrier |

莱西，膠州，黄島などの方言では児化によって濁子音ｒのつく声母はｄｔｎｊｑｘｚｃｓと歯間音〔tθ〕〔tθ'〕〔tθ〕など12ある。南西部と比べて，同じものは６つで，異なるものも６つである。次にその異なる部分を比較したい。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 卒 | zu | （小）卒儿 | zrur |
| 钱 | cian | （零）钱儿 | crar |
| 苏 | su | （小）苏儿 | srur |
| 枣 | [tθau] | （小）枣儿 | [tθraur] |
| 刺 | [tθ'i] | （肉）刺儿 | [tθ'rer] |
| 三 | [θan] | （初）三儿 | [θrar] |

#### 2.1.2 原声母の単子音から無関係な複合子音への変化

このような例は比較的少なく，関連する音節も少ない。南西部の金郷，単県，魚台，城武などの方言では“子”が語尾となる単語を児化する場合，“子音節”の声母ｚは往往にして<dr>に変わる。次の比較を見てほしい。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| （小）子 | zi | （小小）子儿 | drer |
| （妮）子 | zi | （小妮）子儿 | drer |
| （缸）子 | zi | （茶缸）子儿 | drer |

北京語の影響を受けて，この様な言い方は徐々に少なくなっている。しかし，田舎の老人達の口からまだ聞けるのは間違いない。

上古音の中の複合子音声母は，中古音になって，すべて無くなってしまった，と言うことは多くの学者によって述べられたが，動態的な山東方言の中にはどうして存在しているのか。それは児化で舌先を巻く動作が前の音素に同化する影響を与えていたと言うことが最も重要な原因であるが，上古音の複合子音が方言の中に残ったと考えてよいか否かは断言できない。

### 2.2 単子音のＡから単子音のＢへの変化

単子音のＡからＢへの変化は，次の４種類に分けられる。

#### 2.2.1 舌先前音から舌先後音への変化

第一節ですでに述べたように，大運河流域の方言には舌先後音 zh ch sh r 声母が存在しな

く，中古音の知，荘，章組声母の字が全部舌先前音ｚｃｓ〔z〕声母となった。しかし児化すると，その一部地域の方言には舌先後音声母が現れる。そして，中古音の知，荘，章３組だけでなく，精組の字もzh ch sh r声母に発音されるようになる。次に金郷，嘉祥，魚台，成武など方言の例を示す。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 侄 | zi | 侄儿 | zher |
| 字 | zi | （写）字儿 | zher |
| 猪 | zu | （小）猪儿 | zhur／zhuer |
| 组 | zu | （分）组儿 | zhur |
| 车 | ce | （风）车儿 | cher |
| 葱 | cong | （小）葱儿 | chongr |
| 山 | san | （土）山儿 | shar |
| 丝 | si | （姜）丝儿 | sher |
| 仁 | ［zen］ | （杏）仁儿 | rer |

また，児化は児化する音節自身だけではなく，時々児化音節の直前の音節まで影響を与える。例えば“十三儿”，“初五儿”，“张庄儿”では“十，初，张”それぞれも(shi, chu, zhang)舌先後音声母を取っている。そういう現象を見れば，もともと方言には２つの児化音節を続ける形が存在していたことが考えられる。現在，方言において単音節の重ね方のみの児化(例えば“树枝儿枝儿”，“瓜子儿子儿”，“汤匙儿匙儿”，“肉刺儿刺儿”，“试儿试儿”，“头发丝儿丝儿”，“饼干儿干儿”，“瓶盖儿盖儿”など)は普遍的に見られる。従って，上述した「ＡＢ児」形は「Ａ児Ｂ児」形から変遷して来たと言って良いであろう。

以上により，次の結論が成り立つ。舌先後音は静態的な方言に於いてはすでになくなったが，動態的な方言ではまだ存在している。そして，これらの方言では中古音の知，荘，章３組の声母と精組声母との合流はかなる以前から行われていたと考えられる。

2.2.2 舌葉音から舌先後音への変化

膠州などの方言では中古知，荘，章３組の字が舌先後音zh ch shと舌葉音〔tʃ〕〔tʃ'〕〔tʃ〕２つに分かれている。しかし児化して，舌葉音声母は舌先後音声母になってしまう。以下，例を示す。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 周 | ［tʃou］ | （两）周儿 | zhour |
| 折 | ［tʃe］ | （打）折儿 | zher |
| 车 | ［tʃ'e］ | （风）车儿 | cher |
| 串 | ［tʃ'uan］ | （羊肉）串儿 | chuar |
| 声 | ［ʃong］ | （出）声儿 | shongr |
| 神 | ［ʃen］ | （走）神儿 | sher |

2.2.3 舌面中音から舌面後音への変化

膠州などの方言では舌先中濁辺音“l”声母の付く音節が児化されると，“l”声母は舌先後濁辺音〔L〕になってしまう。次の例の通りである。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 楼 | lou | （小）楼儿 | ［Lour］ |
| 刘 | liu | （小）刘儿 | ［Lour］ |
| 李 | li | （小）李儿 | ［Ler］ |
| 料 | liao | （布）料儿 | ［Laor］ |
| 驴 | lü | （毛）驴儿 | ［Luer］ |

〔L〕声母は児化した音節にしか現れない。

2.2.4 零声母から子音声母への変化

膠州などの方言では一般に，零声母(斉歯呼と撮口呼)音節が児化されると，舌先後音ｒ声母の音節になり，開口呼と合口呼は変化しない。次の例の通りである。

| 一般音節 | | 児化音節 | |
|---|---|---|---|
| 芽 | ya | （豆）芽儿 | rar |
| 印 | yin | （手）印儿 | rer |
| 人 | yin | （纸）人儿 | rer |
| 雨 | yu | （小）雨儿 | rur／ruer |
| 园 | yuan | （花）园儿 | ruar |
| 瓤 | yang | （瓜）瓤儿 | rangr |

3), 4)二種の現象は膠南，昌楽，昌邑などの方言にも広く存在している。他の方言はどうなのか，今後一層の調査が必要である。

児化によって声母は様々な変化を起こすことは明らかである。上に挙げたようにｂｐｄ…からbr pr dr…へ，ｚｃｓ〔z〕からzh ch sh rへ，lから〔L〕への変化はすべて巻舌の動作がもたらしたもので，巻舌音化による同化現象と見られる。静態的な方言に現れない声母が動態的な方言には現れるということである。

注

統一：統一性を持ち変化することを示す。

参考文献

1．王力　漢語音韻学　1982　中華書局
2．袁家骅　漢語方言概要　1983　文字改革出版社
3．黄伯栄　普通話語音教程　1989　青島出版社
4．銭曾飴　煙台方言報告　1982　斉魯書社
5．馬鳳如　膠州市誌(方言編)　1992　新華出版社